

## 22カ国から110人 防災対策を学ぶ

### 仙台でセミナー

アジアや南米など22カ国の政府関係者を対象にした防災に関するセミナーが15日、仙台市青葉区の東北大青葉山キャンパスで開かれ、約110人が震災対策や防災教育に

ついて学んだ。

東北大災害制御研究センターの源栄正人教授が東日本大震災の建物被害をテーマに講義した。源栄教授は地震の揺れに強い建物の構造などを説明。震災で被災した学校の事例を紹介しながら「学校と地域の連携が大切だ。事前に学校が避難

所になった時の教員と住民の役割分担を決めておくべきだ」と述べた。

セミナーは外務省が主催する海外の防災関係者の招聘(しょうへい)事業の一環として開かれた。震災体験や復興状況の正確な情報を発信し、各国の対策に役立てることを目的としている。15日は甚大な津波被害を受けた宮城県女川町の被災、復興状況も視察した。